

令和6年度 宮城県 英語教育改善プラン

目標

主体的・対話的で深い学びにつながる言語活動の充実と授業改善のため、外国語活動・外国語担当教員の指導力向上を目指し、言語活動を通じた指導についての研修を充実させる。

○授業の50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合 (R5: 93.3% ⇒ R6: 100%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業におけるICT活用が大幅に増加

・1人1台端末等を用いた発表や話すことにおけるやり取り

(R4: 75.6% ⇒ R5: 85.8%)

・発話や発音などの録音・録画

(R4: 56.7% ⇒ R5: 73.7%)

・キーボード入力等で書く活動

(R4: 52.5% ⇒ R5: 67.2%)

②ALTの英語の授業以外での参画が大幅に増加

・英語の授業以外の授業や学校行事での児童との交流

(R4: 54.2% ⇒ R5: 72.8%)

未だ改善が必要な点

①児童の英語による言語活動の時間が上昇していない

・授業の50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合

(R4: 93.3% ⇒ R5: 93.3%)

②パフォーマンステストを実施する学校の割合が100%に満たない

・「やり取り」「発表」のパフォーマンステストを実施した学校の割合

(R4: 96.2% ⇒ R5: 94.8%)

2. 要因分析

①研修会において、学習者用デジタル教科書の活用の利点やICT活用の実践事例を紹介したことで、各校においてICT活用のイメージが具現化されたと考えられる。

②研修会や学校訪問等において、ALTについては「活用」ではなく「参画」を意識しながら協働していこう伝えたことで、JTE・ALTともにALTの参画について意識が向上したと考えられる。

①言語活動については理解が進み、ほとんどの学校において言語活動の実践が充実してきたものの、未だ試行錯誤の段階である学校があると思われる。

②パフォーマンステストにおけるICT活用やALTの参画について未だ理解が十分ではなく、効果的な実践がなされていない学校があると思われる。

3. 目標を達成するための施策・事業

④①②授業におけるICT活用の更なる推進

児童の主体的・対話的で深い学びにつながる言語活動の充実のため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を年間の研修テーマとして学習者用デジタル教科書等のICT活用法や有用性について研修を実施し、授業改善に生かす。

②②小中連携事業の成果等の普及

小・中・高のつながりを踏まえた言語活動の在り方やALTの授業内及び授業以外での参画の具体について理解を深める機会とするため、過去11年間の小中連携事業での成果や有効だった具体的な手立て等について、指導主事学校訪問や各種研修、ホームページ等を通じて周知する。

④①②実践事例やmextchannel紹介等を含めた研修の充実と授業改善に向けた指導助言

言語活動の具体について研修する機会とするため、中学校教員と共に研修できる機会を設け、各教育事務所管内の教員の実践事例を紹介するとともに、mextchannelの一部視聴等を通して授業の在り方について研修を実施する。また、指導主事が管内の各校において示範授業を行いながら、言語活動を通じた指導と授業改善について指導助言を行う。

①小学校英語専科指導に係る加配定数の活用

県として教科担任（英語）69名、非常勤講師（英語）7名を加配定数として定めている。また、新規採用については中学校又は高等学校の英語の教員免許を持った受験者を「一定の英語力を有する者」として定義し、令和6年度は新規採用者212人のうち19人（全体の9.0%）が該当する。

令和6年度 宮城県 英語教育改善プラン

目標

主体的・対話的で深い学びにつながる言語活動の充実と授業改善のため、英語科教員の指導力向上を目指し、言語活動を通じた指導についての研修を充実させる。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 43.1% ⇒ R6 : 50.0%)

○授業の50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合 (R5 : 62.5% ⇒ R6 : 70.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①授業におけるICT活用が増加
・1人1台端末等を用いた発表や話すことにおけるやり取り

(R4:85.4%⇒R5:93.8%)

・メール・チャット等を用いたやり取り

(R4:7.7%⇒R5:18.6%)

②ALTの英語の授業以外での参画が増加

・英語の授業以外の授業や学校行事での生徒との交流

(R4:76.2%⇒R5:86.0%)

・一定の目的をもった授業外での教育活動

(R4:75.4%⇒R5:89.1%)

③読むことの言語活動における生徒の英語力が改善 (概要を捉える-2.4 要点を捉える-3.7 と、全国平均との乖離が比較的小さい)

①生徒の英語による言語活動の時間が昨年から減少

・授業の50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合

(R4:72.2%⇒R5:62.5%)

②授業における教師の英語使用が昨年から減少

・授業における教師の発話の50%以上を英語で行っている学校の割合

(R4:64.5%⇒R5:48.8%)

2. 要因分析

①研修会において、学習者用デジタル教科書の活用の利点やICT活用の実践事例を紹介したことで、各校においてICT活用のイメージが具現化されたと考えられる。

②研修会や学校訪問等において、ALTについては「活用」ではなく「参画」を意識しながら協働していくよう伝えたことで、JTE・ALTともにALTの参画について意識が向上したと考えられる。

③研修会において「読むこと」の言語活動の充実について研修を実施したことで、概要を捉えるための指導等について理解が進んだと考えられる。

①言語活動が言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されていることへの理解が進み、自らの授業を振り返り、回答への影響が表れたものと考えられる。

②CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する教師の割合に地域間の差が見られる。また、ICT活用が進んだことで、ICTに任せるところは任せるところが増え、授業における教師の発話自体が減少したことも要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①授業におけるICT活用の更なる推進

生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる言語活動の充実のため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を年間の研修テーマとして学習者用デジタル教科書等のICT活用法や有用性について研修を実施し、授業改善に生かす。

②①小中連携事業の成果等の普及

小・中・高のつながりを踏まえた言語活動の在り方やALTの授業内及び授業以外での参画の具体について理解を深める機会とするため、過去11年間の小中連携事業での成果や有効だった具体的な手立て等について、指導主事学校訪問や各種研修、ホームページ等を通じて周知する。

②中学生向け自主学習問題「Miyagi English Library」

オーセンティックな英語表現に触れさせることで生徒の英語学習に対する意欲向上につなげるとともに、ALTの英語教育への参画意識を高めるため、県内のALTが自らの体験を基に作成したオリジナルの読解問題をHPで公開し、活用を促す。

①②データに基づいた研修の充実

英語教育実施状況調査の結果分析から把握できる県内の成果と課題を踏まえ、研修内容の充実を図る。今年度は、県の課題である言語活動の充実に係る具体や教師の英語使用について理解を深めるため、県内全ての英語科教員が受講する事前オンデマンド研修を含む研修会を実施し(5~6月・11月)、教員の実践発表や県緊急プロジェクト動画(PT動画)の視聴・mextchannelの一部視聴等を通して授業の在り方について研修する機会とする。また、県内の市町村別データも取り上げ(市町村名は伏せる)、県内の課題を主体的に考えられるようにする。

令和6年度 宮城県 英語教育改善プラン

目標

情報や考えを的確に理解し、それらを活用して適切に表現し伝え合う生徒を、言語活動を通して育成するための教員の英語力・指導力の向上

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合(R5: A2以上39.6%、B1以上15.5%⇒R6: A2以上50%、B1以上20%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①パフォーマンステストの実施状況が継続的に改善している。

(R3:39.0%⇒R4:50.0%⇒R5:51.9%)

②ICTを用いてやり取りをする活動を実施した学校の割合が増加。

(R4:78.5%⇒R5:81.8%)

キーボード入力等で書く活動を実施した学校の割合が増加。

(R4:49.2%⇒R5:63.6%)

ICTの活用状況の改善が進んでいる。

未だ改善が必要な点

①教師の発話の50%以上を英語で行っている学校の割合が減少。

(R4:41.2%⇒R5:35.7%)

この割合は過去5年間減少傾向にある。

②教師の英語力(B2以上)は、昨年度から大きく改善したものの、全国値(80.7%)とはまだ乖離が大きい。

(R4:51.2%⇒R5:63.1%)

③授業に占める生徒の言語活動の時間の割合は微増しているが依然として50%に満たず、改善の余地がある。

(R4:46.4%⇒R5:46.6%)

2. 要因分析

①全校悉皆の研修において、パフォーマンステストや、バックワードで単元計画を立てることをテーマにしたワークショップを行ったことで、目標の達成状況を見取るためのパフォーマンステストの実施が、各学校に定着しつつあると考えられる。

②拠点校における公開授業や各種研修でICTを効果的に用いた実践事例が紹介され、普及が進んでいると考えられる。

①前指導要領で「授業は英語で行うことを基本とする」とされてから年数が経過し、英語使用への意識が低下していることが要因と考えられる。

②教師と生徒が即興でやり取りをする場面が少なく、教師の英語力向上に対する必要感が弱い可能性がある。

③普通科においては割合が増加しており改善がみられるが、専門学科においては数値が低迷している。また、英語コミュニケーションと比較して、論理・表現で割合が低い。幅広い学力層を想定した言語活動の具体や、論理・表現の指導モデルを示す研修の機会が不足していると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③Teacher's Empowerment Project

コミュニケーションな授業展開のための指導技術取得を目指し、ワークショップ形式でより効果的な指導・評価方法を学ぶ悉皆の研修会を実施する。現状を踏まえ、教師の英語使用を増やし、言語活動を通して指導することを徹底するための研修内容を吟味し充実させる。グループワークによる協働的な学びにより、成果をあげている学校の実践を共有して自校での授業改善につながるよう工夫する。

①②③発信型英語教育拠点校事業

3校の拠点校が、地域の小・中学校との連携により、地域の特色を生かしながら、小・中・高等学校における指導の系統性を踏まえた指導計画の作成と授業開発を行う。各校の実践は公開授業研究会を開催して県下に広く発信し、実践事例や得られた知見を共有する。

①②③世界に発信する高校生育成事業

4校の指定校において、ICT機器を活用した、生徒が実際に英語を使用する体験を通して、適切に自分の考えなどを表現したり伝えあったりする力を育成する。オンライン等による海外生徒との交流活動を充実させ、その取組を県下に波及させるとともに、効果的な指導方法及び評価方法について研究を推進し、教員の指導力の向上を図る。

宮城県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	39.6	50		53		57		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	15.5	20		23		27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	50	46.6	55		60		65		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	50	51.9	55		60		65		70		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	57.0	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	55.8	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	75	63.1	75		78		82		85		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	35.7	50		55		60		65			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	43.1	50		50		50		50		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	62.5	80		90		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	85.8	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	96.9	100		100		100		100	
		公表(%)	90	56.6	90		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	76.7	90		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	39.9	50		50		50		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	48.8	80		90		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	65.5	80		90		100		100
		公表(%)	90	37.9	80		90		100		100
		達成状況の把握(%)	100	53.4	80		90		100		100